

# 荒尾市の教育の現状について

平成28年7月29日  
荒尾市総合教育会議  
資料  
荒尾市教育委員会

# 教育委員会の組織

## 教育振興課

(教育振興課 職員 15名 ※課長含む)

【庶務係】(職員 4名)

教育委員会会議、人事、叙勲、栄典、法規等の制定・改正、学校施設の維持管理、予算・決算に関する事など

【学校規模適性化推進室】(職員 2名 ※庶務係との兼務職員) 学校規模適性化に関する事

【学務係】(職員 7名 ※指導主事含む)

教職員の人事・服務・免許・健康調査関係、学校運営の指導、教職員の研修、就学事務、教科用図書、学級編制、就学援助、教育課程、人権教育、教育相談、特別支援教育、外国語教育、情報教育など

【小学校】(10校)(職員(学校用務員) 1名) 【中学校】(3校)

【学校給食センター】(職員 2名)

給食センター運営委員会会議、給食物資の購入・保管・調理・輸送、献立作成、調理指導、施設・整備の管理など

## 生涯学習課

(生涯学習課 職員13名 ※課長含む)

【社会教育係】(職員 5名 ※少年指導センター所長含む )

社会教育計画、中央公民館、子ども会連合会、社会教育委員、地区社会教育主事補、学校支援地域本部事業、市PTA連合会、成人式、市立図書館、少年指導センター、青少年の健全育成に関する事 など

【スポーツ推進係】(職員 3名)

スポーツ推進審議会、生涯スポーツの推進、スポーツ少年団、運動公園施設及び市内体育館に関する事など

【文化係】(職員 4名 ※兼務職員含む)

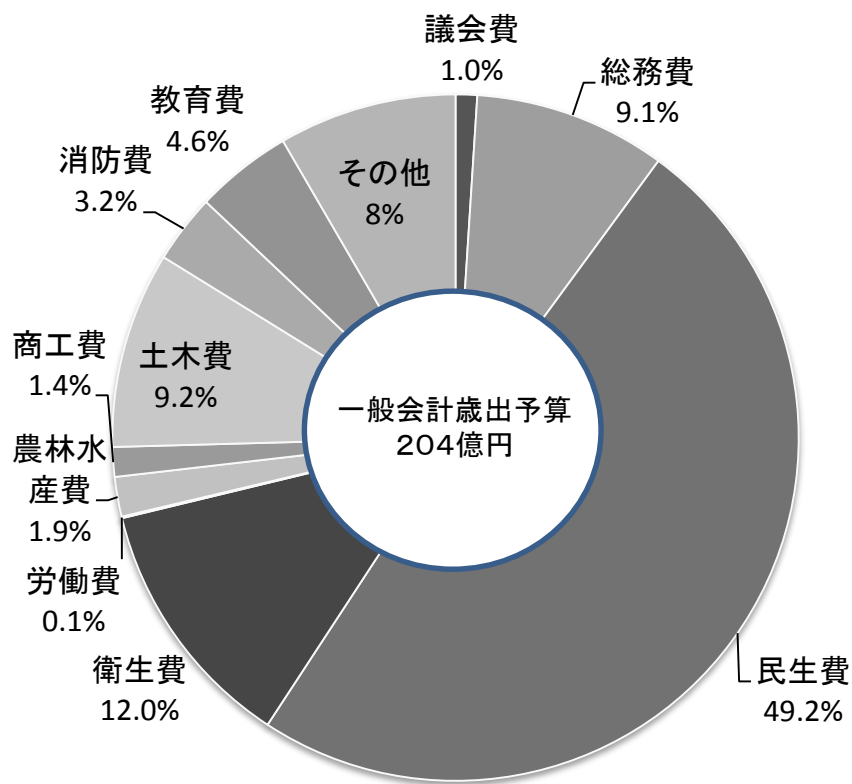
文化財の保護に関する事、文化財の活用に関する事、市民文化祭、史跡に関する事 など

教育長

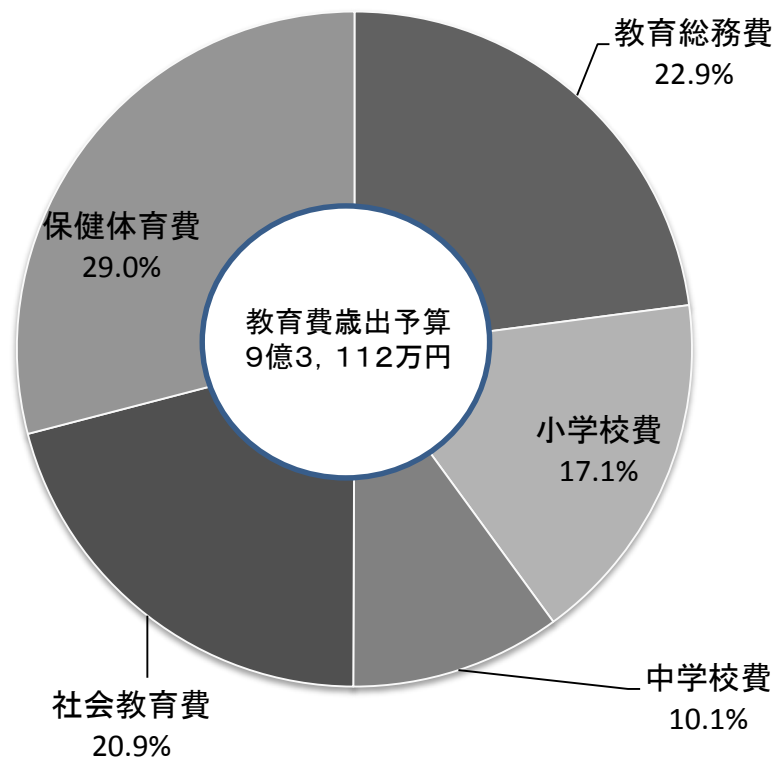
教育部長

# 教育費予算【平成28年度当初予算】

## H28年度一般会計予算



## H28年度教育費当初予算



# 平成28年度学校教育努力目標

## 学校教育のねらい

### ◎「生きる力」をはぐくむ

○基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成(確かな学力)

○自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性の育成(豊かな心)

○たくましく生きるための健康や体力の育成(健やかな身体)

### ◎生涯学習社会を展望した教育の推進を図る。

## 確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と熊本型授業の質を高める取組の推進
- 全ての子どもが楽しく「わかる・できる」ように工夫された授業のユニバーサルデザイン化
- 国や県の学力調査等の結果活用と適切な学習評価による指導と評価の一体化の推進

## 豊かな心の育成

- いじめ・不登校、問題行動等の未然防止と解消に向けた共感的人間関係の育成と関連機関との連携による支援体制の強化
- 児童生徒の心に響く道徳の時間の充実と教育活動全体を通じた人権感覚の育成
- 郷土の偉人や歴史、環境についての学習を通して、自他を大切にする心や自然に対する畏敬の念、郷土を愛する心を醸成

## 健康・体力の向上

- 体育・保健体育の授業の一層の充実と教育活動全体を通じた体力の向上及び適正で魅力ある運動部活動の推進
- 自ら健康の保持増進と安全管理のできる児童生徒の育成
- 「食」に関する指導の充実を通じた望ましい食習慣の形成

## 一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育活動の充実

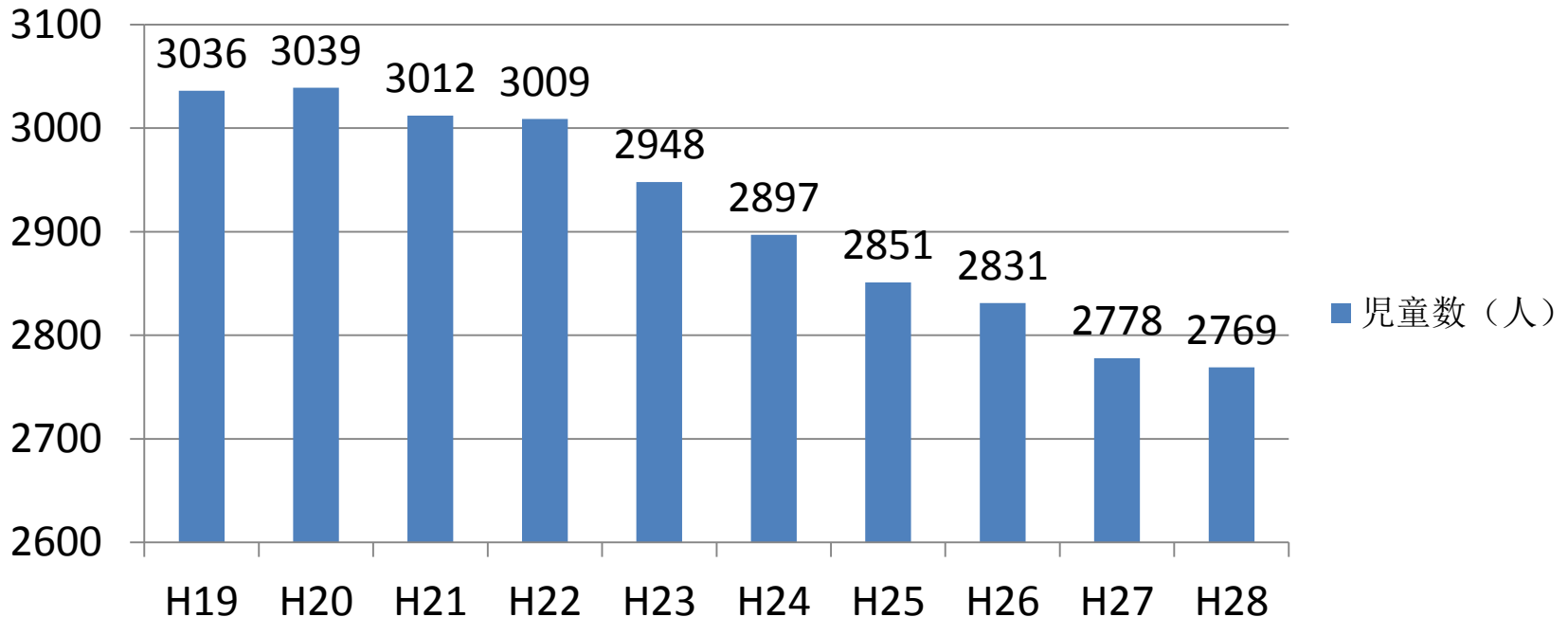
- 開かれた学校づくりの推進
- 教育環境の充実
- 教職員の資質・指導力の向上

# 児童数

○小学校 児童数 平成28年5月1日付け

学校名	一小	万田小	平井小	府本小	八幡小	有明小	緑ヶ丘	中央小	清里小	桜山小
児童数 (人)	439	422	134	85	266	157	440	555	104	167

○児童数の推移

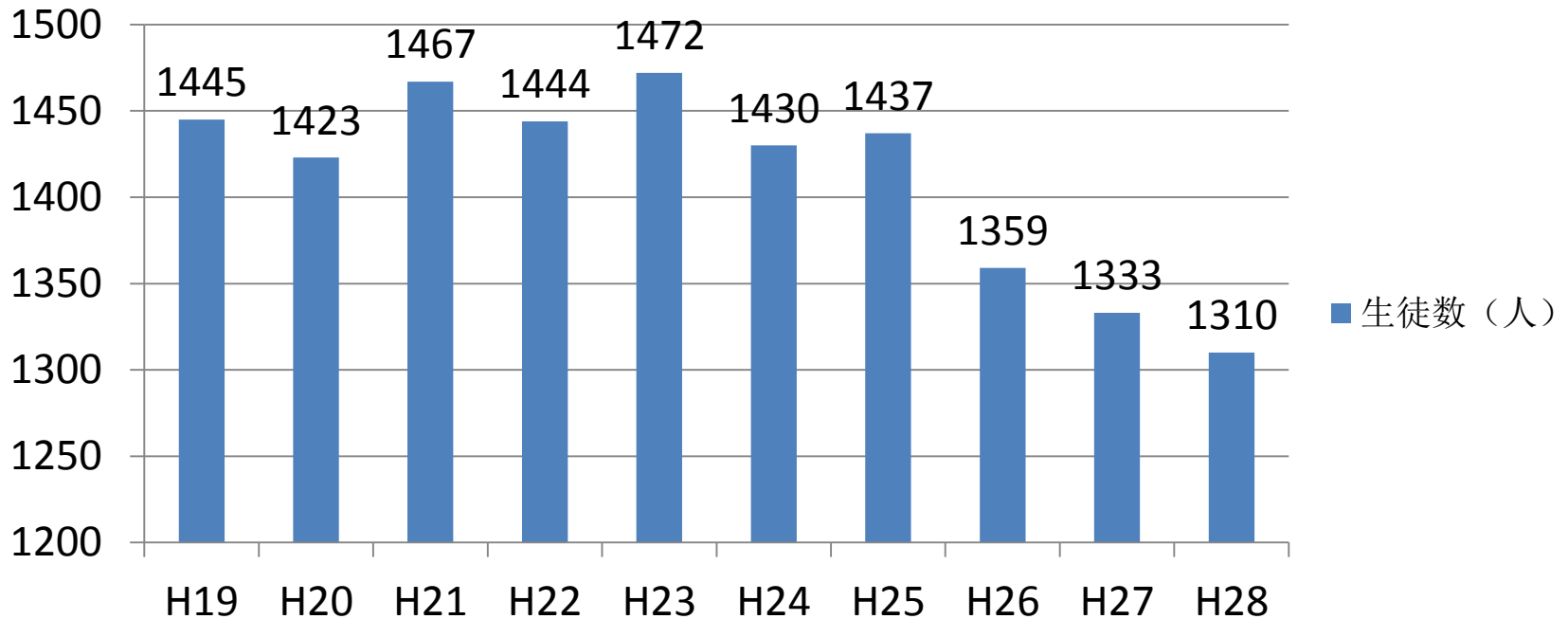


# 生徒数

○中学校 生徒数(人) 平成28年5月1日付け

学校名	海陽中	三中	四中
生徒数 (人)	494	514	302

○生徒数の推移



# 学力の状況

(H27年度 全国学力学習状況調査の結果から)

全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

## ○小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%
熊本県(公立)	70.2%	64.0%	75.5%	45.6%
荒尾市	68.6%	63.7%	76.7%	47.0%

## ○中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%
熊本県(公立)	75.2%	66.2%	64.0%	41.6%
荒尾市	70.8%	61.6%	56.5%	35.8%

参考

実施日:平成27年4月21日実施

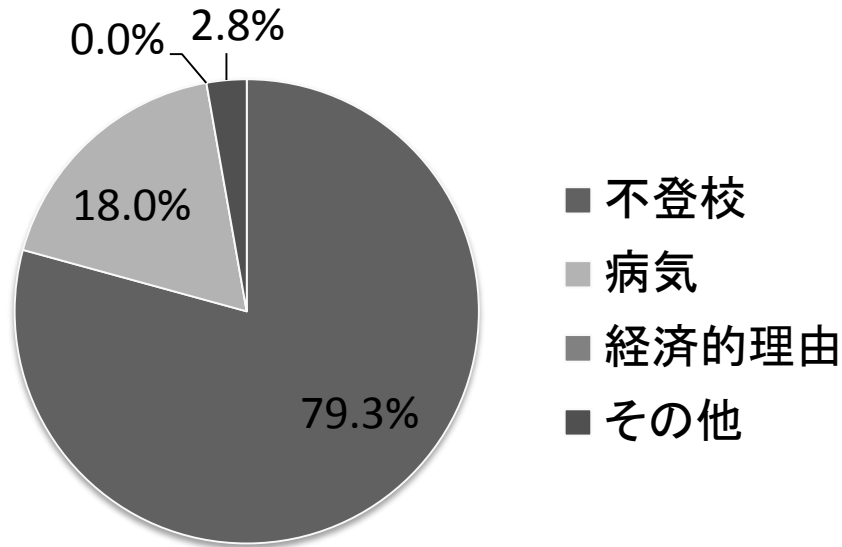
調査対象:小学校第6学年(10校) 470人

中学校第3学年(3校) 450人

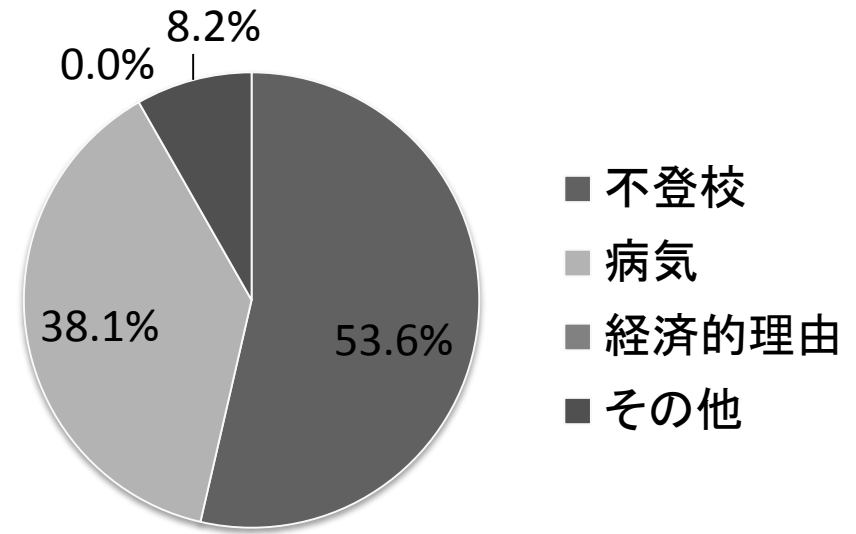
# 不登校の状況

## 学校基本調査(H26年度)結果から

長期欠席児童生徒の理由別割合  
(熊本県)



長期欠席児童生徒の理由別割合  
(荒尾市)



### ○不登校出現率(小中学校)の推移

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
国	1.12%	1.09%	1.17%	1.21%
熊本県	0.96%	0.84%	0.94%	1.06%
荒尾市	1.38%	1.18%	1.24%	1.24%



# いじめの状況

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果から

## ○いじめ認知件数

	H24年度		H25年度		H26年度		H27年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
熊本県	3,864件	1,349件	2,549件	872件	1,847件	780件	—	—
荒尾市	146件	73件	28件	18件	7件	16件	62件	34件

## ○1,000人あたりのいじめ認知件数※1

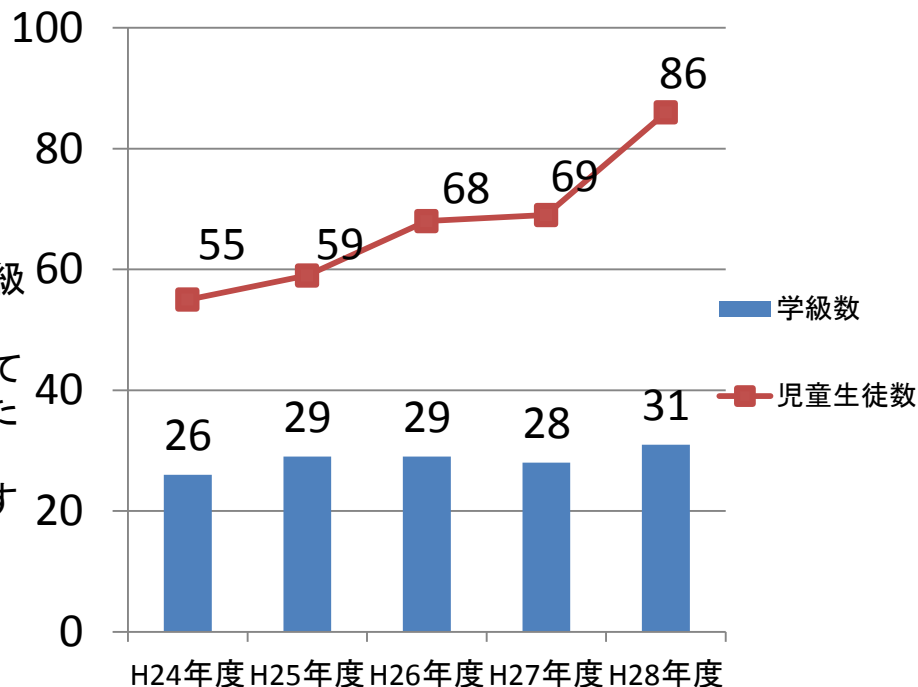
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
国	14.3件	13.4件	13.7件	—
熊本県	29.1件	19.1件	15.0件	—
荒尾市	50.6件	10.7件	5.5件	23.5件

※1 国及び熊本県の1,000人あたりのいじめ認知件数については、高等学校、特別支援学校含む。  
荒尾市は、小・中学校のみ。

# 本市における特別支援教育の取り組み

## 【現状】

- ◆学校教育法が改正され平成19年4月から特別支援教育制度へ転換。
- ◆対象障害種に学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)が加えられた。
- ◆障害のある児童生徒の特別支援学級数や通常学級への入級が増加。
- ◆通常学級に在籍している教育上の配慮を必要としている児童・生徒の割合は、平成24年度に国が実施した調査結果では約6.5%程度在籍する可能性あり。
- ◆本市における平成28年度の特別支援学級に在籍する児童生徒の全体に占める割合は、2.11%。
- ◆実際に、学校現場からは個別の支援を要する児童生徒に関する声や支援員の増員などの要望もある。
- ◆荒尾市特別支援連携協議会を設置し、その取り組みの中で福祉課に配属された臨床心理士が、学習や学校での生活に困り感のある児童の保護者に対し巡回相談を実施。
- ◆臨床心理士が専門的な見地からWISK-iv等の結果を活用しながら困り感の軽減につながるよう保護者や学校に助言を行い、必要であれば医療機関への受診や特別支援教育への入級などを勧めている。



【特別支援学級数と在籍児童生徒数の推移】

## 【課題】

- ◆平成27年度から学校から臨床心理士への巡回相談の依頼が増加しており、過重な負担になりつつある。
- ◆特別支援教育支援員の確保及び人材育成を図り、落ち着いて学習できる学習環境づくりを行う。

# 平成28年度 生涯学習課取組の方向

～教育基本法の趣旨を生かして～

荒尾市民が「豊かな心(情操と道徳性など)」、「優れた教養(知性や創造力など)」、「健やかな体」を育むことができるよう、学校・家庭・地域の連携をはじめ、生涯学習施設の充実や社会教育・文化・芸術活動などへの支援を行うよう努め、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを楽しむよう生涯スポーツの推進に努める。

# 平成28年度 生涯学習課重点努力事項

## 家庭教育支援の充実

- 「くまもと家庭教育支援条例」に基づき家庭教育の重要性を広げていくため保護者、学校、地域、関係機関、社会教育団体と連携し支援体制づくりを推進するとともに、参加体験型の「くまもと『親の学び』プログラム」の普及拡大を図る。また、「家庭教育の向上」、子どもたちの「基本的生活習慣の確立」、「自立心の育成」及び「心身の調和のとれた発達」を図るための一助として、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子の『できるといいね』」の啓発に努める。

## 地域の教育力の活性化

- 地域における奉仕活動・体験活動や異年齢による遊びを通して学ぶ機会の充実を図り、郷土を愛する心や豊かな人間性・社会性を育む。各種団体や関係者との連携強化や地域における指導者の育成に努め、地域の子どもの地域で育てることの仕組みづくりと社会的気運の醸成を図る。また、地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境や学びの場を提供するため「放課後子ども教室事業」、「学校支援地域活動事業」の地域教育力を活用した事業の推進に努める。

## 社会教育の振興

- 学習の機会や学習の成果を生かすことができる機会の充実を図るため、関係部局・機関等と広く連携しながら、先導的かつ広域的事業を積極的に推進する。また、読書ボランティアの育成とその活用を進めるとともに、「肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業」をより多くの学校で活用し、読書環境の改善を図る。「第2次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を策定し、計画の普及啓発に努める。

## 社会教育関係団体・ 施設の活性化

- 社会教育関係団体や中央公民館、図書館等社会教育施設の活性化に寄与するため、情報収集及び提供の充実を図る。また、中央公民館、図書館の指定管理者と連携を密にし、先導的かつ効果的な主催事業を展開するとともに一層の利用促進を図る。2市2町の図書館相互利用により、図書館の広域利用を促進し市民の教養の向上及び文化の発展に努める。

# 平成28年度 生涯学習課重点努力事項

## 生涯スポーツの振興

- スポーツが住民の生活の一部となるような日常的スポーツ活動を支援し、地域の実情に応じたスポーツ環境の整備・充実を図る。また、地域の教育力として総合型地域スポーツクラブの育成を図る。また、本年が荒尾市スポーツ振興基本計画の最終年度となるため、計画の見直しを行い新たに計画を策定する。施設面においても、安全確保と市民に親しまれる環境整備の充実に努めるとともに、運動公園施設の長寿命化計画及び施設の再配置計画を策定する。

## 文化振興及び文化財の整備

- 荒尾市民文化祭をはじめ各種文化事業及び文化団体の支援を図る。また、世界遺産の万田坑の保存整備を推進し、貴重な文化遺産に対する市民意識の高揚へ繋げる。さらに、孫文とその活動を支援した宮崎滔天をはじめとする宮崎兄弟を顕彰し活用する。なお、平成28年度は海達公子生誕100年の記念の年であることから、地域の団体と連携して海達公子を顕彰するイベントを実施する。

## 人権教育の充実

- 「熊本県人権教育・啓発基本計画」を踏まえつつ、社会教育分野において同和問題を人権問題の重要な柱としてとらえ、あらゆる人権問題の解決のために、家庭や地域等における人権教育を推進する。